

長建寺

赤漆の中国風の入り口の門が特徴的な長建寺は、真言宗の仏教寺院として 1699 年に建てられた。日本の七福神で唯一の女神である弁財天が、ここに崇拝されている。弁財天は、もともとはインドのヒンドゥー教の川の神で、「雄弁」または「流れる水」を意味する名前のサラスヴァティーであった。弁財天は、泉、小川、川、運河といった生計を水に依存するすべてのものの守護神のまま、日本で生まれ変わった。その延長線上で考えると、女神弁財天は、詩、音楽、クリエイティブアート、文化全般を含む流れる全ての物の守護神でもある。彼女は日本のもう一つの偉大な芸術作品である日本酒の守護神でもある。

弁天堂の横の寺の敷地には湧き水が流れ出ている。その湧き水は「閼伽水」と呼ばれており、サンスクリット語のアルガに由来する言葉で、「功德」または「善い行いに対する報い」を意味する。伏見の有名な湧き水の多くのように、その水は滑らかで純粹である。

寺の西の角に隠れているのは、石灯籠である。一見すると他の石灯籠と変わらないように見えるが、台座の基底部を良く見ると、聖母マリアの小さな描写が現れる。この石灯籠は、キリスト教徒であることを認めると死刑に処せられた江戸時代(1603-1868)に、隠れキリシタンが密かにここに存在したことを示す希少な遺物である。